

【白老東高校】北海道立学校ふるさと応援事業実施計画書

事業名	「しらおい」で地域とともに学ぶ伝統文化 ～国立アイヌ民族博物館と民族共生象徴空間（ウポポイ）を中心とした「地域学」の取組～
事業内容 (具体的に記載)	・白老町のアイヌ民族の歴史について、生徒が主体的・協働的に学び、生活様式・調理体験・音楽体験など、郷土に根付く伝統や文化の価値を感受するとともに、地域の伝統文化の魅力を発信する。 そのために、アイヌの歴史・文化研究、アイヌの古式舞踊演習、アイヌの木彫体験、山のイオル・川のイオル体験を行う。また、アイヌ紋様、アイヌの伝統楽器、アイヌの食文化について学ぶ、 ・白老町の歴史や文化、産業について、生徒が主体的・協働的に学び、郷土を愛する態度を育むとともに、言語活動を通して地域の伝統文化等を発信する。 そのために、アイヌ語演習に加え、アイヌの信仰・儀礼を学ぶ。また、アイヌ語地名と伝承を学ぶフィールドワーク、アイヌ民族に関わる人物誌研究、白老町の産業研究、白老町の観光研究、白老町の防災研究、白老町の伝統文化研究、白老町の企業研究、白老町の人物研究を行う。 ・アイヌ文化に関わる地域イベントでの高校生の関わりや貢献と授業における地域人材との連携について発表する。

事業の必要性 (課題・背景等)	・生徒の地域の産業や歴史、文化等についての理解不足から、高校生の興味・関心が地元に向いていない。 ・白老町には公立高等学校が1校しかなく、高校生が白老町の産業や歴史、文化等に関する理解を深め、地元で就職し生活するとともに、地域の伝統や文化を支え発信する人材として活躍することを期待している。 ・2020年には国立アイヌ民族博物館を始め、民族共生象徴空間が開設される中で、地域と連携した取組を行い、郷土への愛着や伝統文化への畏敬の念を育み、地域を支える人材育成を図るとともに、先住民族の歴史について生徒が主体的・協働的に学んで伝統や文化の価値を感受し、地域の伝統文化の魅力等について町内外に情報発信を広く行うことが求められている。 ・地域の伝統文化や白老町の歴史など、地域の実態に即した教育課程の編成及び指導方法等の工夫・改善を行い、各教科・科目において教科等横断的にアイヌ文化や地域の産業について学ぶよう学習内容を体系化するために実践および研究が必要である。
----------------------------	--